

【徳之島】第二十七回伊仙町産業祭(町主催)は二十三日、町総合体育館であった。優秀農家など表彰と農業に関する児童生徒たちの意見や研究プロジェクト発表に続き、「年間農業所得五百万円、労働日数二百五十日」を目標にゆとりある農業経営を推進」など六項目を宣言決議。食環境

シャーナリストの金丸弘美氏が「二十一世紀の農業の展望と徳之島農業」で記念講演したほか、駐車場では農産物や加工品などの展示即売会でにぎわった。意見発表では、伊仙小・大山帆子さんと面縄小・吉田大司郎君が「夢のある徳之島農業」、徳之島農高園芸工学科・大保拓也さんが「徳之島農業高校に入学して」と題し理想的な未来型農業や、奄

美唯一の農高の魅力と 培養など「バイオテク 同島農業にかける意欲 ノロジー利用した徳之 島農業高校の取り組み」を紹介。プロジェクト 発表では同園芸工学科 「み」を紹介した。

農業と長寿結びつける宝を

町祭 仙業 伊産 金丸氏 講演 総合的に売る大事さ提案



伊仙町産業祭で記念講演した金丸弘美氏

の義山美幸・若林亮・ 上原隆博・稲里浩助さ んが、ラン類の生長点

記念講演の講師・金丸氏は全国二百カ所以上の農村の取材を通

島に魅せられ、家族で伊仙町に引っ越して半拠点に据えスローライフを実践。来年二月には徳之島を描いたスローライフエッセー『ゆらしい(のんびり)島のスローライフ』(学習研究社)も発行して全国に紹介する。講演で金丸氏は、ミネラル豊富な古来の薪(まき)だき天然塩や純黒糖、牛を愛する住民が育む畜産など宝の数々を挙げ「昔からあったことで宝に気づいてない。二人の長寿世界一を生んだ島だからこそ価値がある」。外の視点での商品開発、食育の推進、独自の長寿調査などで付加価値を付け「農業と長寿を結びつけるブランド化を。そして売る農業だけでなく(グリーンツーリズムなどで)来させる農業を。農産物と自然環境を持っており、その個性を全面に総合的に売ることが大事」など示唆を与えた。